

自治体テーマ集 (伊豆地域)

【目次】

- ✓ 観光：P.2～4
- ✓ 農林水産：P.5
- ✓ 防災：P.6

表題：

データで拓く、伊豆市観光の新たな未来

カテゴリー

観光業

Ω 対象

- ✓ 伊豆市役所 観光商工課
- ✓ 市内の観光関連事業者（飲食店、土産物店、体験施設など）

📌 課題

- ✓ 伊豆市には、宿泊せずに帰られる「日帰り観光客」が数多く訪れます。彼らが市内のどこを訪れ、何に魅力を感じ、いくらお金を使っているのか。私たちは、その経済効果の大きさを肌で感じながらも、実態を正確に把握できていません。
- ✓ 原因は、アンケート調査といった旧来の手法が限界を迎えていることにあります。結果として、観光政策の立案が、これまでの経験や推計値といった部分的なデータに頼らざるを得ず、最適な施策の展開ができていない可能性があります。
- ✓ 近年の社会情勢から観光施策に係る財源が縮小傾向にあり、調査費用の捻出が課題となっています。効率的かつ安価での調査方法を模索しています。

💡 現状

- ✓ 宿泊客を対象としたアンケート調査の実施：
これまでも、宿泊者を対象としたアンケート等により、消費額や動向の把握に努めてきました。しかし、この手法では日帰り客の情報を捉えきれない上、回答の信頼性にも限界があると感じています。
- ✓ DMOや先進事例からの情報収集：
地域のDMOと意見交換を行ったり、先進的なデータ活用の可能性について情報収集を進めています。しかし、市としてそれを具体的に導入・実行する段階には至っていません。

🔗 実現したい未来（アウトカム）

- ✓ テクノロジーの力で日帰り観光客の動態と消費額を可視化し、より客観的・網羅的なデータに基づき、効果的な観光政策を迅速に立案・実行できる未来を目指します。
- ✓ イベントの効果測定や、新たな観光資源への投資判断を的確に行い、伊豆市全体の観光消費額を最大化させるサイクルを創り出します。

🤝 スタートアップ等との協業イメージ ※以下記載以外にも、ご提案可能な点がございましたらご自由にご提案ください

「一回きりの調査手法の提案」ではなく、伊豆市の観光DXを共に推進するパートナーとして、「日帰り観光客の動態・消費データを継続的に把握・分析できるソリューション」の提案を求めます。

< 提案を期待する技術・ソリューション（例） >

- ✓ 携帯キャリアの位置情報データや、キャッシュレス決済データ、ETCデータ等を活用したビッグデータ解析
- ✓ 観光スポットが有するデータから、来訪者数や属性、周遊パターンを分析する技術
- ✓ 観光客がインセンティブ目的で利用する、情報収集・行動記録モバイルアプリの開発・提供
- ✓ これらのデータを統合し、市の担当者が一目でわかるダッシュボード（管理画面）の構築 等

💡 担当部署（伊豆市役所 観光商工課）より

皆様の技術を社会実装するため、伊豆市内関係者との連携を強力にサポートします。国内有数の観光地である伊豆市を、データドリブン観光の先進事例として、共に全国に発信していきましょう。ご連絡をお待ちしております。

表題：

カテゴリー

リノベーションによる「市民と観光客が行き交う商店街」へ

観光業

Ω 対象

- ✓ 中心市街地の空き店舗の増加とにぎわいの喪失に課題をもつ伊東市
- ✓ 周辺の店舗がシャッターを下ろすことで来街者が減少し、魅力と活気が低下する商店街事業者
- ✓ 借り手が見つからず、資産を有効活用できない空き店舗の所有者

📌 課題

- ✓ 補助金等の「点」の支援は行っているものの、商店街という「面」全体ににぎわいを取り戻すには至っていません。個別の起業家支援だけでは、エリア全体の魅力を向上させる統一されたコンセプトがなく、まちを変える大きなうねりを生み出せずにあります。
- ✓ 私たちに今足りないのは、エリア全体の未来を描き、複数の空き店舗を一体的に捉え、魅力的なテナントを誘致・育成し、事業としてエリアをプロデュースする事業者の存在です。

💡 現状

- ✓ 空き店舗活用への補助金制度:リノベーション費用や什器購入費等に対する補助金制度を設け、空き店舗での起業を支援しています。
- ✓ リノベーションスクールの開催:まちづくりに関心のある人材を発掘・育成するため、今後、リノベーションスクールを開催し、具体的な空き店舗の利活用案を検討する場を設けます。
- ✓ 空家等実態調査の実施:市内の空き家・空き店舗の実態を把握するための詳細な調査を実施し、基礎データは保有しています。←調査は翌年度以降を予定しており、現状は課題となっています。

🔗 実現したい未来（アウトカム）

- ✓ リノベーションによって、伊東駅前の商店街が、新しい魅力と活気にあふれた「歩いて楽しいまち」へと再生されている未来を目指します。
- ✓ 若者や子育て世代など、これまで商店街に足を運ばなかった新しい人の流れを生み出し、伊東の玄関口としての「市民と観光客が行き交う商店街」となっている未来を目指します。

🤝 スタートアップ等との協業イメージ ※以下記載以外にも、ご提案可能な点がございましたらご自由にご提案ください

私たちは、この未来を共に創る、まちの新たな魅力を引き出す企画力・プロデュース力を持ったスタートアップを募集します。「1つの店舗を出店する」というご提案だけでなく、自らキープレイヤーとなってエリア全体の価値を向上させる、包括的なご提案をお待ちしています。

< 提案を期待する事業領域（例） >

- ✓ エリア全体のコンセプト企画・設計: 商店街のポテンシャルを読み解き、人々を惹きつける統一感のあるコンセプトや世界観を企画・提案。
- ✓ 魅力的な「コト」の企画・運営: 定期的なマルシェ、アートイベント、体験型ワークショップなど、コンセプトに基づいた「コト（体験）」を企画・運営し、継続的ににぎわいを創出。
- ✓ 遊休不動産を活かした魅力的なテナントの誘致・育成: エリアのコンセプトに合致する、こだわりのある事業者やクリエイターを発掘・誘致し、彼らの事業をサポートすることで、魅力的な店舗構成を実現。
- ✓ エリア全体の情報発信・ブランディング: エリアの魅力と世界観を伝えるコンテンツを企画・制作し、SNS等で効果的に発信することで、商店街そのもののブランド価値を向上

💡 担当部署（伊東市役所 産業課）より

私たちは、「リノベーションによるまちづくり」を本気で進めたいと考えています。市の補助金制度やリノベーションスクールといった既存の取り組みを、最大限ご活用ください。行政だけでは成し得ない、スタートアップならではの企画力と実行力で、伊東駅前の景色を一緒に変えていくパートナーからのご連絡をお待ちしております。

表題：

カテゴリー

観光業

「二次交通の壁」を壊し、もっと周遊したくなる伊東へ

対象

- ✓ 車で伊東市を訪れたものの、駅から先の移動手段が乏しく、市内に点在する魅力的な観光地を自由に巡ることができない方々
- ✓ 駅や主要観光地から離れた場所にある宿泊施設、飲食店、体験施設など

課題

- ✓ 電車で伊東駅に降り立った観光客が、次の瞬間に直面する「壁」。それは、点在する魅力的な観光スポット（大室山、城ヶ崎海岸など）へ、自由かつ快適に移動する手段が極端に限られているという現実です。
- ✓ 既存の路線バスは、市民の生活利用が主目的のため、観光客の「ここから、あそこへ行きたい」という柔軟なニーズに応えきれいていません。この「二次交通の壁」が、観光客の満足度と消費額向上の大きな障壁となっており、私たちの観光基本計画においても最重要課題の一つと位置づけています。

現状

- ✓ 既存の公共交通（路線バス）の維持：
市民の生活の足として、補助金を活用しながら既存の路線バスの運行を維持しています。しかし、観光客の多様なニーズに応える柔軟な運行は難しいのが実情です。
- ✓ 課題認識と情報収集：
現状の取り組みだけでは不十分であるという強い課題認識のもと、MaaSなど先進的な取り組みに関する情報収集を進めていますが、具体的な解決策の導入には至っていません。

実現したい未来（アウトカム）

- ✓ 車がなくても、誰もがストレスなく市内を周遊し、伊東の観光をすみずみまで満喫できる未来を創ります。
- ✓ 移動が快適になることで、滞在時間が延び、市全体の観光入込数と観光消費額が向上している状態を目指します。

スタートアップ等との協業イメージ ※以下記載以外にも、ご提案可能な点がございましたらご自由にご提案ください

私たちは、この課題をテクノロジーで解決するため、伊東市に最適化された「観光型MaaS」を共に創り上げてくれる、意欲的なパートナーからの魅力的なご提案を広く募集します。

<例えば、このような事業領域に関心があります>

AIオンデマンド交通システムの導入:決まった路線ではなく、利用者の予約に応じてAIが最適なルートで小型車両を運行させる、新しい共有交通サービス。

観光MaaSアプリの開発・提供:既存のバス・タクシーに加え、レンタサイクルや提案いただく新交通サービスまで、複数の交通手段を一つのアプリで検索・予約・決済できる仕組み。

交通データ分析に基づく新ルートの設計:観光客の人流データを分析し、収益性と利便性を両立できる新たな周遊ルートや交通サービスを設計・提案。

担当部署（伊東市役所 観光課）より

私たちは、補助金頼りの交通モデルから脱却し、持続可能な新しい仕組みを本気で検討したいと考えています。伊東市を、新しい観光モビリティを社会実装のフィールドと捉えていただき、皆様の自由な発想でご提案いただければ幸いです。ご連絡を心よりお待ちしております。

表題：

伝統農法と先端技術の融合で拓く、 伊豆市「わさびの郷」の未来

カテゴリー

農林水産業

Ω 対象

- ✓ 伝統技術を継承するベテラン生産者から、新たな農業経営を目指す若手・新規就農者をふくむわさび生産者
- ✓ 生産・流通を支える農業協同組合や、地域の旅館・飲食店、観光協会、商工会など、わさびの活用やブランド化を共に推進する事業者

📌 課題

- ✓ 伊豆市の基幹産業であるわさび生産は、「静岡水わさびの伝統栽培」として世界農業遺産に認定されるなど高いブランド価値を有しています。しかしその裏側では、生産者の高齢化や過酷な労働環境といった課題を抱えています。
- ✓ このままでは、伝統あるわさび栽培の技術継承や産地の維持が困難になる恐れがあります。本市が策定した「伊豆市わさびの郷構想」の実現に向け、これらの構造的な課題を解決し、持続可能な生産体制を構築するための革新的なソリューションが急務となっています。

💡 現状

- ✓ 労働環境: 多くのわさび田は山間地の急峻な斜面に位置しており、資材運搬や収穫物の搬出、圃場の整備にかかる労働負担が非常に大きい状況です。運搬用のモノレールの導入なども実施されていますが、設置できない場所もあり、またガソリンエンジンの脱炭素化も課題となっています。
- ✓ 生産基盤: わさび田の多くは重機が入れない場所にあり、土砂や石の除去、伝統的な「畳石式」でのわさび田の再整備には、多大な労力と熟練の技術が必要とされています。栽培環境の悪化により耕作放棄されたわさび田も存在します。

🔗 実現したい未来（アウトカム）

- ✓ わさび生産における労働環境を抜本的に改善し、生産性を向上させ、産業としてのわさび栽培を維持・発展させる。
- ✓ 伊豆市の特産品であるわさび生産を振興・継承し、質・量ともに安定した生産を可能にすることで、地域全体の活性化に繋げる。

🤝 スタートアップ等との協業イメージ ※以下記載以外にも、ご提案可能な点がございましたらご自由にご提案ください

本構想の実現に向け、ハード・ソフト両面における幅広い分野での革新的なアイデアや技術、事業モデルのご提案を期待します。

- ✓ 【省力化・自動化分野】作業負担を軽減するソリューション
- ✓ 【生産基盤の維持・管理分野】わさび田の整備を効率化するソリューション
- ✓ 【環境保全・ブランド価値向上分野】世界農業遺産の価値を高めるソリューション
- ✓ 【技術継承分野】伝統的な「畳石式」などわさび栽培の技術を継承していくソリューション

💡 担当部署（伊豆市役所農林水産課）より

伊豆市のわさびは、その品質の高さと、世界農業遺産にも認定された伝統的な栽培方法が私たちの誇りです。スタートアップの皆様が持つ、常識にとらわれない技術やアイデア、そして情熱を、ぜひ伊豆市のわさび産業に注いでいただき、歴史ある産業を次世代へと繋ぐパートナーとなっていただける方からのご提案を、心よりお待ちしております。

表題：

カテゴリー

災害時「孤立集落ゼロ」への挑戦

防災

対象

- ✓ 孤立リスクの高い地域に居住する方々：特に土砂災害等で道路寸断が懸念される大川、北川地区などの住民の方々。
- ✓ 災害時に特に配慮が必要な方々（要配慮者）
- ✓ 災害時に町内に滞在している方々：観光やビジネスで訪問し、土地勘がなく支援を必要とする方々。

課題

- ✓ 東伊豆町は、地形的特性から道路が寸断されやすく、集落が孤立しやすい脆弱性を抱えています。町の国土強靱化地域計画では「多数かつ長期にわたる孤立集落等の同時発生」を重大なリスクと位置付けており、特に大川、北川地区などでは、孤立時の具体的な支援計画が十分でなく、住民並びに観光客の安全確保が喫緊の課題です。

現状

- ✓ 急傾斜地が多く土砂災害や津波等で道路寸断が懸念され、津波避難施設の整備や訓練のほか、海上からの支援も視野に入れていますが、インフラの網羅的な強靱化には時間を要し、迂回路となる農道等の活用も十分ではありません。

実現したい未来（アウトカム）

- ✓ 集落が孤立した場合でも、住民の生命と安全が最大限守られる社会を目指します。孤立直後から情報、物資、医療、エネルギーを安定的に確保し、住民が安心して救助を待てる強靱な支援体制の構築が必要です。

スタートアップ等との協業イメージ ※以下記載以外にも、ご提案可能な点がございましたらご自由にご提案ください

本課題の解決に向け、ハード・ソフト両面、また「事前対策」と「事後対策」の両面から、既存の枠組みにとらわれない革新的なソリューションの提案を期待します。

① 孤立させないための「未然」のソリューション

✓ リスクの低減と代替手段の確保：

- ・インフラ（道路・法面等）の劣化や災害リスクを、センサーやドローン等で常時監視・予測する技術。
- ・陸路寸断時を想定した、ドローンや小型船舶等を活用した代替輸送手段の確立。

✓ 集落の自立機能強化：

- ・各集落が一定期間持ちこたえられるよう、分散型エネルギー、飲料水確保システム、地域内通信網など、オフグリッドで機能する生活インフラの導入。

② 孤立した際の「発生後」のソリューション

- ✓ 状況把握とスマートな物資供給：孤立集落の被害状況やニーズをリアルタイムに把握し、多様な輸送手段を最適に組み合わせて物資を供給する仕組みの構築。
- ✓ 遠隔からの生活支援：孤立集落内の住民の健康状態を遠隔で見守り、必要に応じてオンラインで専門家（医師等）の支援を受けられる仕組みの構築。

担当部署（東伊豆町 防災課）より

東伊豆町は、その地形から、道路寸断による集落の孤立が深刻な課題となります。行政としてインフラ整備を進めていますが、ハード対策だけでは限界があります。「どうすれば、孤立しても命と暮らしを守れるか」。この問いに対し、皆様の斬新なアイデアと技術で、共に東伊豆町の強靱な未来を築いていけるスタートアップからのご提案をお待ちしています。